

JR四国グループ

中期経営計画2025の達成に向けた取組み

【2024年度第3四半期 報告書】

2025年2月14日

四国旅客鉄道株式会社

目次

本報告書は2020年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

1. 収支の状況

- (1) 2024年度第3四半期 連結決算
- (2) 2024年度第3四半期 単体決算

2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2024年度第3四半期の検証結果（総括）
- (4) 2024年度第3四半期の実績等

1. 収支の状況

(1) 2024年度第3四半期（4月～12月） 連結決算/前年度比較/グループ全体の状況

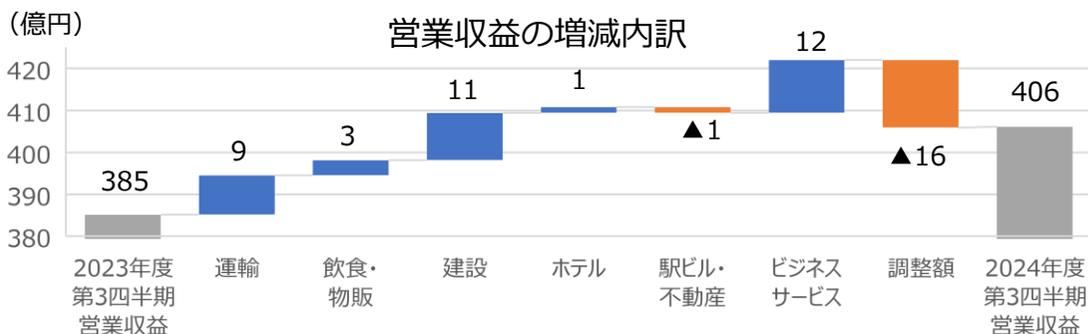
○決算の概況

新型コロナウイルス感染症の5類移行による移動需要の回復に加え、各種増収施策を実施したことにより、運輸、飲食・物販、建設、ホテル、ビジネスサービスセグメントにて営業収益が増加し、四半期純利益は連結・単体ともに黒字となりました。

○連結損益計算書

第3四半期累計	2023年度	2024年度	増減	(単位：億円)
				比率(%)
営業収益	385	406	21	105.5
営業費	460	482	22	104.8
営業利益	▲ 74	▲ 75	▲ 1	—
営業外損益	120	123	2	102.3
経常利益	45	47	1	103.7
特別損益	▲ 0	▲ 0	0	—
四半期純利益	40	37	▲ 2	93.6
親会社株主純利益	40	37	▲ 2	93.5

(注)2023年度の親会社の営業費は人件費、動力費の単価などを実績に置き換えております。



・営業収益は、移動需要の回復を背景に「運輸」「飲食・物販」「ホテル」セグメントで増加しました。また、グループ外からの工事受注増加により「建設」セグメントも増加したほか、東京セフティを2023年度期末から連結子会社化したことなどから「ビジネスサービス」セグメントも増加しました。一方で「駅ビル・不動産」セグメントにおいて、分譲マンション販売の反動減などから減収となりましたが、グループ全体では前年度から21億円の増収となりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、増収に伴う売上原価の増加や「TAKAMATSU ORNE」など新規取得に係る減価償却費の増加などにより22億円増加となりました。

結果、営業利益は前年度より1億円悪化し、75億円の赤字となりました。

・営業外損益は、国からの支援である「経営安定基金の下支え」により受取利息が増加したことなどから2億円の増加となりました。結果、経常利益は前年度より1億円増加し、47億円となりました。

・以上より、法人税等を加味した親会社株主純利益は2億円減少し、37億円となりました。

1. 収支の状況

(1) 2024年度第3四半期（4月～12月） 連結決算/前年度比較/セグメント別の状況

○セグメント情報

第3四半期累計	2023年度	2024年度	増減	(単位：億円)
				比率(%)
営業収益				
運輸	211	221	9	104.5
飲食・物販	43	47	3	108.2
建設	78	89	11	114.5
ホテル	60	61	1	102.4
駅ビル・不動産	45	44	▲ 1	96.9
ビジネスサービス	56	69	12	122.3
営業利益				
運輸	▲ 91	▲ 91	0	—
飲食・物販	0	1	0	134.3
建設	4	6	1	136.5
ホテル	9	8	▲ 0	96.8
駅ビル・不動産	3	▲ 0	▲ 3	—
ビジネスサービス	1	1	▲ 0	74.9

(注) セグメント別の営業収益は、外部顧客への営業収益のほか、他セグメントへの営業収益を含んでいるため、連結決算における営業収益の増減内訳とは一致しておりません。

・運輸

移動需要の回復や運賃改定などにより、鉄道の運輸収入が増加したため、増収増益となりました。

・飲食・物販

移動需要の回復及び、新規店舗開業などにより店舗販売収入が増加したため、増収増益となりました。

・建設

松山駅付近高架化や多度津工場等の建築工事の増加に加え、グループ外からの電気工事受注等が増加したため、増収増益となりました。

・ホテル

移動需要の回復により宿泊収入が増加した一方で、修繕費が増加したため、増収減益となりました。

・駅ビル・不動産

「TAKAMATSU ORNE」開業に伴うテナント賃料収入が増加した一方で、分譲マンション販売の反動減や、減価償却費も増加したことなどから、減収減益となりました。

・ビジネスサービス

東京セフティを2023年度期末より連結子会社化したほか、多度津工場等の設備工事が増加した一方で、売上原価や人件費が増加したため、増収減益となりました。

1. 収支の状況

(2) 2024年度第3四半期（4月～12月） 単体決算/前年度比較/当社全体の状況

○単体損益計算書

(単位：億円)

第3四半期累計	2023年度	2024年度	増減	比率(%)
営業収益	220	225	4	102.1
鉄道運輸収入	167	175	8	104.8
その他収入	53	49	▲ 3	93.6
営業費	312	318	5	101.8
人件費	105	102	▲ 3	96.9
動力費	20	20	▲ 0	99.6
業務費	68	65	▲ 2	95.7
修繕費	50	59	8	117.0
諸税	10	10	▲ 0	99.9
減価償却費	56	60	3	106.1
営業利益	▲ 91	▲ 92	▲ 1	—
営業外損益	125	129	3	102.7
基金運用益	89	87	▲ 2	97.2
(運用利回り %)	(5.73)	(5.56)	(▲ 0.17)	—
特別債券利息	26	26	—	100.0
経常利益	34	36	2	106.6
特別損益	▲ 0	0	0	—
税引前四半期純利益	34	36	2	107.0
四半期純利益	32	31	▲ 1	96.7

(注)2023年度の人件費、動力費は単価などを実績に置き換えております。

・営業収益について、鉄道運輸収入は、移動需要の回復や運賃改定の効果などから8億円増加しました。また

「TAKAMATSU ORNE」開業等に伴う不動産賃貸収入が増加した一方で、分譲マンション販売の反動減などにより、その他収入は3億円の減少となりました。

・営業費は、分譲マンションの売上原価の減少により業務費は減少した一方で、修繕費の増加や、「TAKAMATSU ORNE」取得に加え、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、5億円の増加となりました。結果、営業利益は前年度より1億円悪化し、92億円の赤字となりました。

・営業外損益は、外部委託運用益の反動減があったものの、国からの支援である「経営安定基金の下支え」により受取利息が増加したことに加え、有価証券売却益や子会社からの受取配当金が増加したことなどにより3億円の増加となりました。結果、経常利益は前年度より2億円増加し、36億円となりました。

・以上より、法人税等を加味した四半期純利益は1億円減少の31億円の黒字となりました。

1. 収支の状況

(2) 2024年度第3四半期（4月～12月） 単体決算/前年度比較/事業別の状況

○事業別

第3四半期累計	2023年度	2024年度	増減	(単位：億円)
				比率(%)
鉄道事業				
営業収益	189	198	9	105.0
営業利益	▲ 92	▲ 92	0	—
関連事業				
営業収益	31	26	▲ 4	84.7
営業利益	0	▲ 0	▲ 1	—

・鉄道事業

移動需要の回復や運賃改定の効果などによる鉄道運輸収入の増加に加え、旅行業収入も増加したことなどから、営業収益は9億円の増加となりました。

営業費は、修繕費の増加に加え、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、9億円増加しました。結果、営業利益は11百万円の改善となりました。

・関連事業

「TAKAMATSU ORNE」開業や賃貸用不動産取得に伴い不動産賃貸収入は増加したものの、分譲マンション販売の反動減などから、営業収益は4億円の減少となりました。

営業費は減価償却費などが増加した一方で、分譲マンションの売上原価が減少したことなどにより3億円の減少となりました。結果、営業利益は1億円の減少となりました。

2. 主要施策KPIの達成状況

(1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2025の施策のうち、2024年度に取り組む主要なものについて、KPIとKGIを設定し、本検証の対象としました。

※KPI（Key Performance Indicator）とは、最終的な目標（KGI：Key Goal Indicator）を達成するための過程を計測する中間指標です。

(2) 検証項目一覧

	KPI項目
鉄道運輸収入の安定的な確保	<ul style="list-style-type: none"> ① 鉄道運輸収入の確保 ② チケットアプリの定着・拡大 ③ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大 ④ 利便性向上によるお客様満足度の向上 ⑤ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興
非鉄道事業における 最大限の収益拡大	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 連結売上高の確保 ⑦ (株) JR四国ホテルズの売上高 ⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高 ⑨ 四国キヨスク(株)の売上高
生産性向上・その他	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ コスト削減の取組み

2. 主要施策KPIの達成状況

(3) 2024年度第3四半期（10月～12月）の検証結果（総括）

- 検証項目10項目のうち、6項目でKPIを達成、1項目で一部達成、3項目で不達成となりました。
- 「鉄道運輸収入の安定的な確保」と「非鉄道事業における最大限の収益拡大」については、ものがたり列車10周年を記念したイベント実施や、年末の多客期における本州方面特急列車の指定席増席、快速「マリンライナー」の料金見直し、「TAKAMATSU ORNE」における継続的なイベント開催などに取り組み、収益の確保・拡大に努めました。また、車両のリニューアル工事を進めることでより便利に、快適にご利用いただけるように努めています。これらの結果、「鉄道運輸収入の確保」「観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大」「（株）JR四国ホテルズの売上高」などの項目でKPIを達成しました。
- 「生産性向上・その他」については、グループ一体でコスト削減に取り組み、KPIを達成しました。
- 引き続き、各種施策の取組みを積極的に行い、KGI達成を目指します。

2. (4) 2024年度第3四半期の実績等

① 鉄道運輸収入の確保

当社の収益において最大の割合を占める鉄道事業の収益確保に取り組みます。

鉄道運輸収入	3Q KPI		3Q 実績		達成率
	定期	11.6億円	定期	12.3億円	106.4%
定期外	45.7億円	定期外	48.8億円	106.8%	

◆検証結果

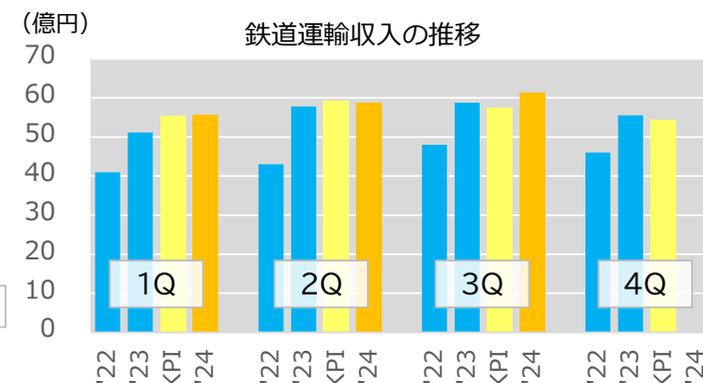
- ・台風等の影響が少なく比較的天候に恵まれたことに加え、松山駅の高架化開業によるご利用増がありました。また、以下の施策に取り組むことでKPIを達成しました。
- ・インバウンド向けに関係自治体と連携した利用促進プロモーションを実施し、ALL SHIKOKU Rail Passの販売枚数はコロナ禍前の8割半ばの水準まで回復し、インバウンドの団体利用も増加しました。
- ・インターネット予約「e5489」においてJR西日本グループのWESTERポイントサービスと連携したキャンペーンを展開し、本州-四国間の利用拡大につながりました。
- ・快速「マリンライナー」のグリーン料金および座席指定料金の見直しを実施しました。
- ・年末の多客期に本州方面特急列車を中心に指定席を増席するとともに、早めの予約購入を推進することでご利用が増えました。

訪日外国人向けパス（ALL SHIKOKU Rail Pass）の販売枚数は、4,660枚（対前年151%）となりました。

◆今後の取組み

- ・冬季閑散期対策商品を造成し、積極的なPRを行うなど各種営業施策を展開することにより着実に収入を確保し、KGI達成を目指します。

2024年度KGI
鉄道運輸収入226億円



② チケットアプリの定着・拡大

2023年度から本格稼働したチケットアプリのご利用の定着・拡大に取り組みます。

取扱収入割合	3Q KPI		3Q 実績		達成率
	定期	14.0%	定期	17.2%	122.9%
定期外	7.0%	定期外	5.8%	82.9%	

2024年度KGI		
取扱収入割合 (通期)	定期	14.5%
	定期外	6.5%

◆検証結果

- ・Web広告を活用し、チケットアプリの認知度向上や2Qにリニューアルしたホームページへの誘導を図りました。
- ・定期については新規購入や年度初からの継続購入が堅調に推移し、KPIを達成した一方で、定期外については乗車券などのご利用の伸びが想定を下回り、KPIに届きませんでした。
- ・11月に実施したアプリのバージョンアップにより、デジタル障害者手帳「ミライロID」とアカウント連携することで障害者割引を適用したきっぷが購入できるようになるなど、より便利にご利用いただけるようになりました。
- ・アプリ会員数は引き続き増加しています。

◆今後の取組み

- ・アプリ限定のおトクなきっぷの発売やターゲット層に合わせたPR方法の変更、定期券の買い替え時期に合わせたPRなど、積極的な情報発信やキャンペーンを実施し、チケットアプリのご利用拡大を図ります。



2. (4) 2024年度第3四半期の実績等

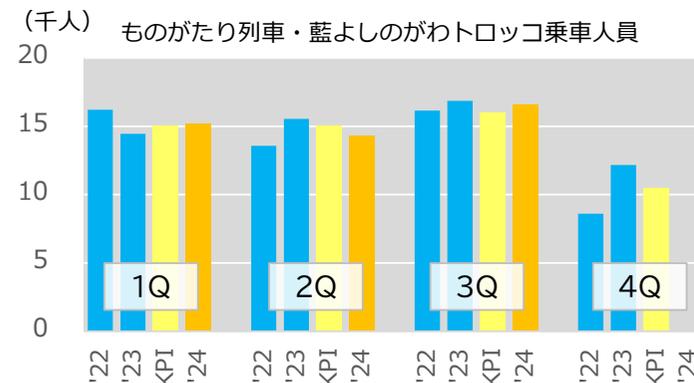
③ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大

魅力的な観光列車やトロッコ列車の運行により、四国への誘客促進や鉄道のご利用促進に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率
観光列車乗車人数	16,000人	103.5%

- ◆ 検証結果
 - ・2Qに引き続き、ものがたり列車運行開始10周年企画の車体ラッピングや記念グッズの販売を行い、季節のイベントなども実施することで多くのお客様にご乗車いただきました。
 - ・台湾の旅行会社への働きかけによる「藍よしのがわトロッコ」の貸切運転や、松山駅の高架化開業を契機とした特別運転等、多くの貸切運転を実施できたことでKPI達成につながりました。
 - ・「藍よしのがわトロッコ」については、企画きっぷの発売や新メニューの開発、プレゼントキャンペーンなどを行い、乗車率は前年を上回りました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・4Qでは10周年企画の締めくくりとして、記念動画の公開やキャンペーン等で一層盛り上げ、引き続きものがたり列車の認知度向上と誘客促進に努めます。
 - ・サービスレベルの維持・向上を目的にアテンダント研修を行い、お客様満足度を上げることで更なる集客、ブランド力の向上を図ります。
 - ・「藍よしのがわトロッコ」では3月からの運転に向けて、お弁当と企画きっぷの見直しやキャンペーンの検討、ハード面ではトイレの洋式化を行い、利便性向上と利用促進を図ります。

2024年度KGI
観光列車乗車人員 56,500人



④ 利便性向上によるお客様満足度の向上

お客様満足度の向上を目指し、車両リニューアルのほか、各種サービス・設備の導入拡大に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
サービス改善アンケートの実施 車両リニューアル工事完了 (8000系S編成1本、1200型1両)	計画どおり実施済み	○

- ◆ 検証結果
 - ・サービス改善アンケートは、2024年12月9日～2025年1月10日で実施しました。
 - ・8000系（特急電車）は計画どおりS編成1本のリニューアル工事を完了しました。
(営業運転開始は11月17日)
 - ・1200型（ローカル気動車）は計画どおり1両のリニューアル工事を完了しました。
(営業運転開始は12月23日)
- ◆ 今後の取組み
 - ・アンケートの結果をサービス改善に活かすとともに、アンケートは内容を変えつつ毎年度1回実施する予定です。
 - ・快適にご利用いただけるよう、今年度は1200型の残り1両の工事を進めていきます。

2024年度KGI
車両リニューアル工事の完了、 各種サービス・設備の導入拡大



8000系 リニューアル車両

2. (4) 2024年度第3四半期の実績等

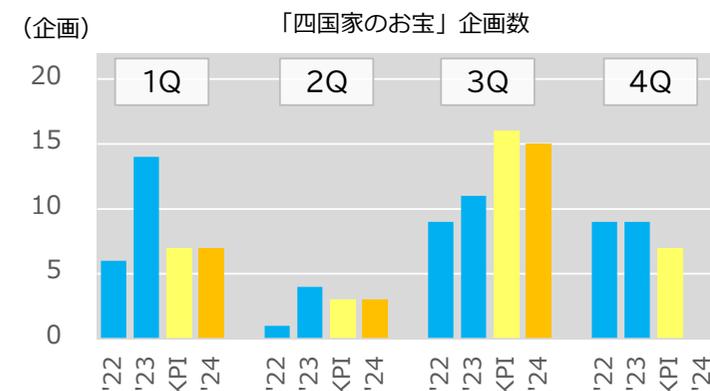
⑤ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興

四国の地域資源・文化資源を掘り起こし、地域と協働して観光素材へ磨き上げ旅行商品として販売することで、観光による地域活性化に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
16企画 (参加人数 300人)	15企画 (参加人数 178人)	×

- ◆検証結果
 - ・16コースを検討しましたが、ガイド不足により1企画が設定できませんでした。また、集客不足により催行中止となった日程もあり、参加人数が減少しKPI未達成となりました。
 - ・一方で、いの町をはじめとした新たなコンテンツが発掘できました。
 - ・一部企画にてJR四国全線フリーきっぷ（1日間用/2日間用）をセットできるようにしたところ好評で、鉄道運輸収入の確保と四国内広範囲の観光振興につなげることができました。
- ◆今後の取り組み
 - ・4Qで8企画を計画し、KGI達成を目指します。
 - ・参加者へのアンケートをもとに行程の変更や各施設での説明内容を調整するなど、各コンテンツを更にブラッシュアップするとともに、四国の魅力向上に向けた自治体との連携を深度化します。
 - ・「四国家のお宝」をツアーという切り口以外でもPRできるよう検討を進めます。

2024年度KGI
33企画 (参加人数600人)



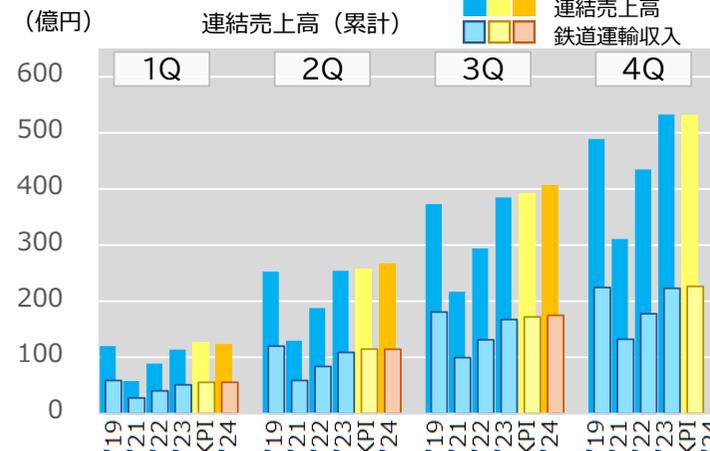
⑥ 連結売上高の確保

非鉄道事業のさらなる収益拡大に向け、グループ一体となった取り組みにより、連結売上高を確保します。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
累計 392億円 (鉄道運輸収入 172億円)	406億円 (鉄道運輸収入 175億円)	○

- ◆検証結果
 - ・ものがたり列車10周年を記念したイベント実施や、年末の多客期における本州方面特急列車の指定席拡大、快速「マリンライナー」の料金見直し、関係自治体と連携したインバウンド向けの利用促進プロモーション等に取り組み、鉄道運輸収入は計画を上回ることができました。
 - ・「TAKAMATSU ORNE」での継続的なイベント開催、キャンペーン展開等に取り組み、にぎわいづくりと収益拡大に努めました。
 - ・建設セグメントにおいてグループ外からの工事受注に努めました。
 - ・これらの取り組みにより連結売上高は計画額を上回り、KPIを達成しました。
- ◆今後の取り組み
 - ・グループ一体で収益拡大に向けた各種施策への取り組みを継続し、KGI達成を目指します。

2024年度KGI
532億円 (鉄道運輸収入226億円)



2. (4) 2024年度第3四半期の実績等

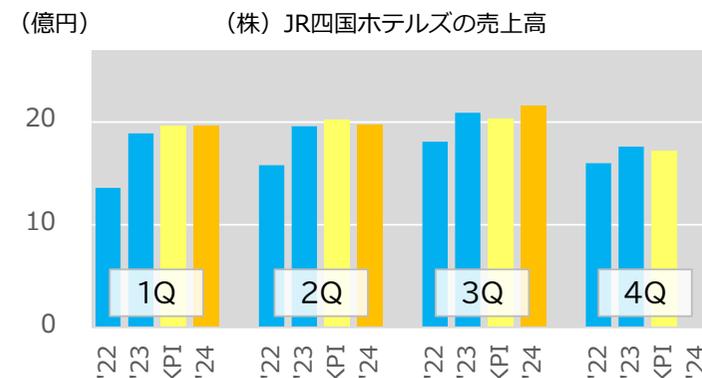
⑦ (株) JR四国ホテルズの売上高

お客様ニーズに対応した安全・安心で上質なサービスの提供に努めます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率
20.3億円	21.6億円	106.4%

- ◆ 検証結果
 - ・ 訪日外国人客の増加に加え、逆打ちお遍路団体等の国内団体客も堅調に取り込むなど、宿泊部門を中心に売上確保に努めた結果、KPIを上回る売上を確保することができました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 宿泊部門は、引き続き、好調な訪日外国人客の積極的な獲得に努めます。
 - ・ レストラン部門は、安全・安心を第一に、ホテルクオリティでの料理・サービスの提供に磨きをかけ、他店との差別化、魅力度の向上により売上拡大に取り組みます。
 - ・ 宴会部門は、安定的な収益確保を目指し、新規顧客への営業強化と恒例宴席の早期受注、受注進捗管理による会場稼働率向上に努めます。

2024年度KGI
77.5億円



⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高

ターミナル駅の持つポテンシャルを最大限に引き出し、まちの「顔」として人が集い、にぎわいあふれる拠点づくりに努めます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率
1,379百万円	1,357百万円	98.4%

- ◆ 検証結果
 - ・ 北館では11月15日の「JINS (ジンス)」開業により2階がフル稼働状態となり、「ロフト」とともに賑わいを牽引しました。
 - ・ クリスマスから大晦日にかけてはギフト商品、土産、食料品が好調に推移するなど、3Qの北館のテナント売上高は堅調な結果となりました。一方で、既存施設の南館が計画に達しなかったことから、全館としてのテナント売上高はKPIに届きませんでした。
 - ・ 3Qの入館者数は208万人で2Qを下回ったものの、1Q以上に多くのお客様にお越しいただきました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 周辺では香川県立アリーナが2月24日に開業し、3月1日からのサザンオールスターズのライブを皮切りに毎週末イベントが開催される予定です。各テナントにおける商品・サービスの充実を図るとともに、大規模イベント時における土産・飲食等の一部店舗の営業時間延長を検討・実施します。
 - ・ 今春は、アリーナ開業・大学開校により周辺環境が大きく変わると同時に、高松オルネも開業1周年を迎えます。この機会を捉え、「街開き」「新生活」「1周年」の各種販促策を展開します。
 - ・ また、空き区画への店舗誘致を推進し、これらの取組みにより入館者数、売上高の増大を図ります。

2024年度KGI
5,276百万円



TAKAMATSU ORNE

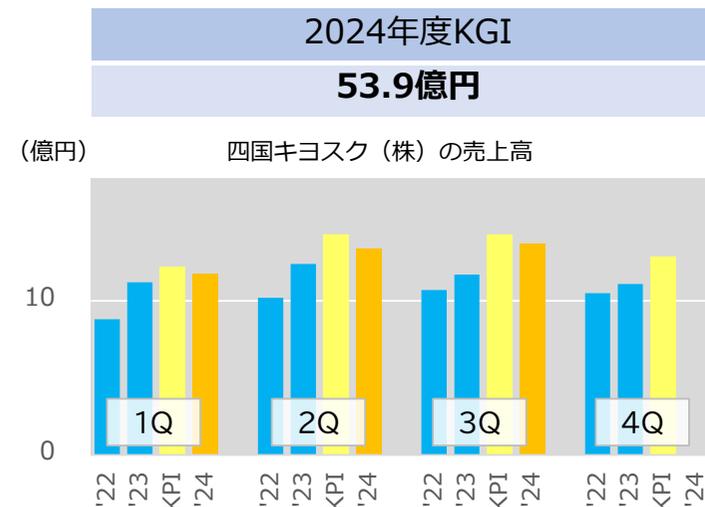
2. (4) 2024年度第3四半期の実績等

⑨ 四国キヨスク（株）の売上高

「お客様第一」の視点で高品質なサービスの提供に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率
14.3億円	13.7億円	95.8%

- ◆ 検証結果
- ・コンビニ店舗については、スーパー等の競合店舗の影響で売上目標を達成できませんでしたが、販促の「プライチ」はクーポン引換客が多くリピート客が増えたほか、「うれしい値」販促によりデリカ等の日配食品の売上が増加しております。
 - ・土産店舗については、人気商品が想定以上の販売で欠品となり、チャンスロスとなりました。また、お客様が競合他店へ流れたことで客数が減少したものの、PB商品を中心とした店内キャンペーンの実施により、GP率が増加しました。
 - ・TSUTAYA BOOK STOREについては、中四国初のシェアラウンジの認知度が低い状況ですが、一方で物販は一定程度のご利用がありました。
- ◆ 今後の取組み
- ・コンビニ店舗は、お客さまに訴求効果のある低価格商品「うれしい値」のアイテムおよび「プラスもう一品」を買っていただけるよう、販売促進や店内での積極的な声掛けを強化します。また、開店10周年記念セール等のイベント企画を実施し、売上増加に努めます。
 - ・土産店舗では、引き続き好調な「特設コーナー」での限定商品や話題商品の陳列・販売に努めます。また、香川県立アリーナの開業に向けて、商品の欠品を防ぐため、在庫の確保に努めます。
 - ・TSUTAYA BOOK STOREにおいては、SNSを活用したPOPUP STOREやイベントの告知、シェアラウンジのお得な情報を発信することにより、売上・利用者増を図ります。



⑩ コスト削減の取組み

デジタル基盤の活用や業務の見直し等、省力化・省人化による生産性の向上を図ります。

鉄道事業を中心に要員削減を進め、成長分野へのシフトを図ります。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
JR四国▲53百万円、 グループ会社▲5百万円	JR四国▲90百万円、 グループ会社▲16百万円	○

- ◆ 検証結果
- (JR四国)
- ・業務のデジタル化による旅費・会議費・印刷コスト等の削減や、安全に影響しない修繕費の見直し等のコスト削減に取り組みました。
- (グループ会社)
- ・各社において、要員の見直しや広告宣伝費の削減等に取り組みました。

- ◆ 今後の取組み
- ・これまでの施策を継続するとともに、車両部品の検査周期延伸の更なる拡大など新たな施策も検討し、引き続きコスト削減に努めます。

2024年度KGI
JR四国▲193百万円、グループ会社▲20百万円 要員削減に向けた取組みの推進 (▲70名程度)

2024年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目			KPI		実績	達成状況
鉄道運輸収入の安定的な確保	① 鉄道運輸収入の確保 KGI:鉄道運輸収入226億円	運輸収入 (定期)	1Q	12.4億円	12.6億円	101.6%
			2Q	11.9億円	12.2億円	102.1%
			3Q	11.6億円	12.3億円	106.4%
			4Q	10.7億円		
		運輸収入 (定期外)	1Q	43.0億円	43.0億円	100.0%
			2Q	47.3億円	46.6億円	98.7%
			3Q	45.7億円	48.8億円	106.8%
			4Q	43.5億円		
	② チケットアプリの定着・拡大 KGI:取扱収入割合（通期） 定期 14.5% 定期外 6.5%	取扱収入割合 (定期)	1Q	12.0%	14.2%	118.3%
			2Q	13.0%	15.9%	122.3%
			3Q	14.0%	17.2%	122.9%
			4Q	20.0%		
		取扱収入割合 (定期外)	1Q	5.0%	5.0%	100.0%
			2Q	6.0%	5.0%	83.3%
			3Q	7.0%	5.8%	82.9%
			4Q	8.0%		
③ 観光列車を活用した特別企画の実施、 情報発信による流動拡大 KGI:観光列車乗車人員56,500人		1Q	15,000人	15,214人	101.4%	
		2Q	15,000人	14,264人	95.1%	
		3Q	16,000人	16,552人	103.5%	
		4Q	10,500人			

2024年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI		実績	達成状況
鉄道 運輸 収入 の 安定 的 な 確保	④ 利便性向上によるお客様満足の上 昇 KGI:車両リニューアル工事の完了、 各種サービス・設備の導入拡大	1Q	1200型車両リニューアル工事完了（1両）	計画どおり実施済み	○
		2Q	8000系車両リニューアル工事完了（L編成1本）	計画どおり実施済み	○
			1200型車両リニューアル工事完了（1両）		
		3Q	サービス改善アンケートの実施 8000系車両リニューアル工事完了（S編成1本） 1200型車両リニューアル工事完了（1両）	計画どおり実施済み	○
	4Q	デジタルサイネージ導入拡大（11駅）			
		1200型車両リニューアル工事完了（1両）			
	⑤ 「四国家のお宝」の更なる充実による 観光振興 KGI:33企画（参加人数600人）	1Q	7企画（参加人数 80人）	7企画（82人）	○
		2Q	3企画（参加人数 60人）	3企画（68人）	○
3Q		16企画（参加人数 300人）	15企画（178人）	×	
4Q		7企画（参加人数 160人）			

2024年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI		実績	達成状況
非 鉄 道 事 業 に お け る 最 大 限 の 収 益 拡 大	⑥ 連結売上高の確保 KGI:532億円（鉄道運輸収入226億円）	1Q	126億円（鉄道運輸収入 55億円）	124億円（ 55億円）	△
		2Q	累計 258億円（鉄道運輸収入114億円）	267億円（114億円）	○
		3Q	累計 392億円（鉄道運輸収入172億円）	406億円（175億円）	○
		4Q	累計 532億円（鉄道運輸収入226億円）		
	⑦（株）JR四国ホテルズの売上高 KGI:77.5億円	1Q	19.6億円	19.6億円	100.0%
		2Q	20.2億円	19.7億円	97.2%
		3Q	20.3億円	21.6億円	106.4%
		4Q	17.2億円		
	⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高 KGI:5,276百万円	1Q	1,254百万円	1,297百万円	103.4%
		2Q	1,280百万円	1,311百万円	102.4%
		3Q	1,379百万円	1,357百万円	98.4%
		4Q	1,363百万円		
	⑨ 四国キヨスク（株）の売上高 KGI:53.9億円	1Q	12.2億円	11.8億円	96.5%
		2Q	14.3億円	13.4億円	96.5%
		3Q	14.3億円	13.7億円	95.8%
		4Q	12.9億円		
・ 生 産 性 向 上 其 他	⑩ コスト削減の取組み KGI:JR四国▲193百万円、グループ会社▲20百万円 要員削減に向けた取組みの推進（▲70名程度）	1Q	JR四国▲40百万円 グループ会社▲5百万円	JR四国▲75百万円 グループ会社▲13百万円	○
		2Q	JR四国▲52百万円 グループ会社▲5百万円	JR四国▲96百万円 グループ会社▲12百万円	○
		3Q	JR四国▲53百万円 グループ会社▲5百万円	JR四国▲90百万円 グループ会社▲16百万円	○
		4Q	JR四国▲48百万円 グループ会社▲5百万円		